

# 平成20年度事業報告書

平成20年6月1日から平成21年5月31日まで

特定非営利活動法人 東上まちづくりフォーラム

## 1. 事業の成果

平成20年度は、ビジネス助っ人隊が順調に発展して会員数も増加。また新たなプロジェクト活動も始まった。中間支援活動の一環として行っている『東上線NPOネット』（東武東上線沿線の13のNPOが横連携した組織）でも複数のNPOが共同で自治体から委託されて地元での講座での講師を務めるようになるといった活動が起きている。

### ①地域資源の再発見と人材開発の場の提供

現在、東上まちづくりフォーラムでは、この「地域資源の再発見と人材開発の場の提供」の項目に対応する活動として、「ビジネス助っ人隊」活動を行い、当NPOにとっての基幹事業と位置づけている。平成20年度、ビジネス助っ人隊への登録会員は5月末現在で113名となり、そのうちの44名が東上まちづくりフォーラムの正会員として、ビジネス助っ人隊の活動を実施している。

（正会員が「秘密保持契約」を結んだうえで、収入に結びつくコミュニティビジネス活動を実施。）

ビジネス助っ人隊には、「コンサル助っ人隊」など内容別の助っ人隊があり、また「地域力連携拠点埼玉西部（川越商工会議所）チーム」など顧客に対応したチームがある。「スキルを収入に」を合言葉として、地元中小企業を支援することで収入を得るというコミュニティビジネス活動を志向しており、平成20年度は支援先企業・団体数は100件を超えた。支援の内容は、「営業支援」がもっとも多く、ついで「経営支援」、「ホームページ・DVD制作」といった分野に及んでいる。また「講習会・講師派遣」も行っており、この分野でも企業OB層を中心とした中高年層の活躍の場ができています。

### ②まちづくり提案とプロジェクト活動

20年度には、「市民事業大学プロジェクト」、「障がい者IT支援プロジェクト」「IT活用高齢者いきがい創出プロジェクト」が理事会で承認され立ち上がった。とくに「市民事業大学プロジェクト」のなかからは、『東上ビデオサークル』やその発展形である『市民映像フォーラム』といった組織が立ち上がり活発に活動が行われた。

また継続して「楽農会プロジェクト」が実施された。『楽農会』は約3年にわたって東上まちづくりフォーラムのなかの一プロジェクトとしての活動実績を積んできたが、この平成21年4月からは別の組織としての活動を始めた。この団体は一般社団法人としての登記がなされる予定であり、東上まちづくりフォーラムが新しい公益団体のインキュベーションを行った形となった。

### ③住民交流の場づくり

平成20年度も、オープンでくつろいだ懇親の場である「三火会」を毎月第三火曜日に開催した。ちょうど年度の区切りである5月の三火会で、いったん毎月第三火曜日に開催という日程は終了し、新年度（6月から）は、第二水曜日に開催する「二水会」として継続することとなった。時間帯も三火会が19時からであったのを、17時半からになる。

平成20年度、東上まちづくりフォーラムが代表世話人団体となっている『東上線NPOネット』は、市町村との協働提案ミーティングで2つの発表（プレゼ）を行い、そのうちのひとつであった市町村と協働でシニア層を対象とした地域デビュー講座を行うという案が身を結んだ。

## 2. 事業報告

### (1) 特定非営利活動に係わる事業

①地域資源の再発見と人材開発の場の提供

事業名称	活動内容
ビジネス助っ人隊	<p>企業OBが地元中小企業を支援したり、自らの思いを形にしていく組織「ビジネス助っ人隊」の活動は、埼玉県（団塊世代活動支援センター）との協働事業として継続して実施した。</p> <p>ビジネス助っ人隊への登録メンバー数（全体MLと呼ばれるメンバーリストの情報が届く）は、5月末日時点で113名となり、そのうちの44名が東上まちづくりフォーラムの正会員となっている（正会員は業務MLに参加し、収入に結びつく活動を行える）。企業OBが中心であるが、一部個人事業者が登録。平均年齢は60歳代前半（約62歳）である。</p> <p>実際の活動内容については、平成20年3月末日時点で統計をとった、以下の数字をもって説明とする。（これは、平成19年10月のビジネス助っ人隊の活動開始時からの累積の数字である）</p> <p>1) 検討依頼案件数 174件                  2) 検討後お引き受けした件数 153件                      ①お引き受けし成果が出た件数 110件                      ②お引き受けし活動中の件数 15件                      ③成果が出ず断念した件数 7件                  3) 検討時点でお断りした（あるいは断られた）件数 21件</p> <p>主な活動事例は、以下である。（記載の数字は上記区分に対応）</p> <p>&lt;営業支援&gt;</p> <p>a. ①；金属・合成樹脂精密加工会社様から顧客開拓を依頼され、人脈を生かして大手自動車メーカーを仲介し協力会社への参入を支援。</p> <p>b. ①；総合洗浄専門会社様から厨房洗浄案件の顧客開拓を依頼され人脈を生かして神奈川県総合外食産業を仲介。他の外食産業にも営業展開中。</p> <p>c. ①；M商工会様から新会員開拓を依頼され、ノウハウを活かして会員加入活動を3ヶ月間行い20件の会員を開拓。</p> <p>d. ②；パソコン端末装置開発会社様から携帯電話との非接触通信端末の顧客開拓を依頼され、アプリケーションの提案による顧客開拓を継続展開中。</p> <p>e. ③；特許を取得したアイデア商品の商品化を依頼され、関連製造業を当たるが販売リスクが大きいと折り合いがつかず商品化を断念。</p> <p>f. 3)；外斑母指の矯正器具の販売支援を依頼されるが、薬事法をクリアしていないためお断りする。</p> <p>g. 3)；エンジン活性化剤の販売支援を依頼されるが、効能の表現が独禁法に抵触するため表現の改善を申し入れしたところ、不可能と断られる。</p> <p>&lt;経営支援&gt;</p> <p>h. ①；地域力連携拠点埼玉西部（川越市商工会議所）の認定団体として中小企業の経営革新アドバイザーとしてコンサル業務を行い平成20年度には約60数件を支援。</p> <p>i. ②；金属加工会社様から新商品の販売支援を依頼されるが、市場調査したところニッチ市場すぎて販路が見付からない。なぜ販売不可能商品ができてしまったか、が経営課題となり、市場を見据えた商品開発体制と手順ルール化と定着に着手中。</p> <p>&lt;ホームページ・DVD制作&gt;</p> <p>j. ②；洗浄専門会社様から引き合い件数を増やすホームページのリニューアルを依頼され納品するとともに、メールとの組み合わせで引き合い件数を増やす活動を実施中。また顧客向けのDVDの制作も準備中。</p>

ビジネス助っ人隊（続き）

<講習会・講師派遣>

k. ①；身障者向けホームページ制作パソコン講習会  
横須賀リサーチパーク（Y R P）の社会福祉補助事業の補助金を活用し身障者 15 名にホームページ制作のパソコン講習会を昨年に続き実施。

l. ①；シニア情報アドバイザー（教える人）の養成講座  
経済産業省の外部団体の財団法人「ニューメディア開発協会」の認定資格で、シニアに主にインターネットの活用方法を指導し新しい楽しみを見出すお手伝いを行うアドバイザー（教える人）を教育する講習会。当ビジネス助っ人隊はアドバイザー（教える人）を教育する資格を有し、現在 5 名の同資格者がいる。

m. ②；商業者向けネットショップ開設講習会  
埼玉県・商業支援課との協働事業で、県下商業者 30 名へネットショップの開店を目指して 8～2 月（8 ヶ月）の講習会「彩の国商業 I T 革新塾」を実施。

また現在、ビジネス助っ人隊の中には、以下の個別の助っ人隊が存在する。

- ・営業助っ人隊；多くの地元企業からの「売上を伸ばしたい」というニーズ（依頼）に応え、販路開拓や顧客開拓案件をビジネス助っ人隊メンバーの人脈を活用して紹介（仲介）
- ・パソコン I T 助っ人隊；パソコンに関する悩み事の解決をお引き受け、シニア情報アドバイザー養成認定資格も取得して講師教育や、ユーザー向け使い方講習会等を主催。特に身障者向けパソコン講習会は社会福祉活動として、更に、県との協働事業のネットショップ講習会は実際に開店させる講習会として高い評価を得ている。
- ・映像助っ人隊；映像で見た方が即座に理解できる「動画と音声の映像」の制作を行う A V 技術屋集団です。顧客開拓のホームページや D V D などの電子カタログを動画と音声の映像を入れての制作を行う。
- ・エコビジネス助っ人隊；食品スーパーやコンビニエンスストアなど食品小売業の省電力化や廃棄物削減による C O 2 排出削減手法を駆使して効率経営実現の支援を行う「エコストア助っ人隊」から始まり、現在はより広くエコビジネス全般に対応。
- ・コンサル助っ人隊；地元企業の悩みの根源は「社長の経営にたいする悩み」です。社長の相談相手となり中期目標の実現に向けての「経営改革、販売戦略、生産現場改革」などの実践指導を実施。
- ・経営研修助っ人隊；経営改革、販売戦略、生産現場改革などを実践するには経営幹部から従業員までの意識改革やレベルアップが必要。上場企業の研修内容を中小企業向けにアレンジしたプログラム「アクティブセミナー」を用意し講師をメンバーが担う形での活動を展開。
- ・商工団体助っ人隊；商工会議所・商工会や中小企業を会員とする団体の活動を支援。新会員の開拓活動や各種のイベント開催の支援を実施。
- ・まち興し助っ人隊；商店街の活性化、休耕資源の見直しと事業化支援、地域間連携による事業化支援、産学官連携による事業化支援、などについて提案と案件単位での受託活動中。
- ・N P O 助っ人隊；これから N P O を設立したい、既に N P O を立ち上げたが活動が停滞した N P O に対しての連携支援活動を実施。

②まちづくり提案とプロジェクト活動

プロジェクト名称	活動内容
楽農会プロジェクト	<p>昨今の食糧・農産物の不正表示や危険な食材のニュースを目の当たりにすれば、だれしものが、日本の食糧自給のあり方がこのままでいいとは思えないというのが実感です。</p> <p>楽農会は、そんな思いの都会の生活者、とくに若い世代の「食糧の安全、安心」に応えて、消費者が自ら農業に接して、米や野菜がどんな環境で、どんな農作業を経て、求める“安心・安全”が保たれるのかを、体験をとうして知る機会を提供しているプロジェクトです。</p> <p>参加者の顔ぶれは、20～30歳台の女性が6割以上と、子育てや家庭を担う重要な役目を負う世代の参加が多いことは、非常に意義あることと感じています。</p> <p>6月の田植えに始まり、11月の収穫祭まで5回のイベントと、合間に臨時に開催された「草取り」や「生き物調査」を含め、すべての開催日を天候にも恵まれ無事に終了しました。</p> <p>さらに、専門的に農業や食糧、環境の課題を深めるため、平成21年度より発展的に組織を新しく立ち上げ、「一般社団法人グリーンウェア・アカデミー」として、当NPOとも連携しつつ活動を続けていくことを報告いたします。(楽農会プロジェクト代表・大山充 記)</p>
市民事業大学プロジェクト	<p>企業や市民向けのお金が取れる講座の講師になれるだけの実力をもった人材は、(もちろんビジネス助っ人隊のメンバーを始めとして)この地域に大勢いる。そうした人材に活躍の場を提供し、かつコミュニティビジネスとしても成立させる、という考えで立ち上がったプロジェクト。</p> <p>数回の会合をもって、ビジネス化を検討したが、現時点では参加メンバーが分担して、それぞれの講座を立ち上げる活動を実施中。例えば、「映像講座」「まち興し講座」「木工講座」「IT関連講座」等である。とくに映像講座に関しては、『東上ビデオサークル』という名称で2、3回の講座が実際に開催され、またその集まりが核となり、県内全域に活動範囲を広げた『市民映像フォーラム』が立ち上がるという活動が行われた。</p>
障がい者IT支援プロジェクト	<p>プロジェクトのねらいは以下の通りである。</p> <p>①YRP研修の受講者募集活動を通して知り合った、障がい者支援の、公的機関・NPO・団体・個人と日頃から連携をとり、研修を実施する。(入口)</p> <p>②就労をねらいとした実践的なホームページ研修(YRP研修含む)、その他のIT研修を実施し、ビジネス助っ人隊との連携により受講者に就労の場を提供する。(出口)</p> <p>③ホームページ制作のためのテンプレートを用意し、障がい者のスキルの現状に応じた「研修→制作→メンテ」のビジネス・モデルを作る。(例：3万円ホームページ制作)</p> <p>④発注元と在宅就労障がい者との間に立って、さまざまな支援を行う「在宅就業支援団体(厚生労働大臣登録)」の登録を目指す。</p> <p>ほぼ内容が固まったので、YRPの状況を見て、来期早々にはプロジェクトメンバーを募り、本格的な活動を開始する予定である。</p>
IT活用高齢者いきがい創出プロジェクト	<p>シニアを対象としたPC教室であるが、主テーマはシニアの生きがいづくりであり単にPCの操作研修にとどまらず、PCと趣味、ITに関わる社会的テーマ(セキュリティ、個人情報保護など)、修了者によるネットワークづくり支援などに重点がある。</p> <p>5月から志木ニュータウン居住者を対象に基本2講座(1講座4回)を企画、実施し、9名の受講者が集まった。懇切丁寧な指導との高い評価を受けている。</p> <p>今後は、団地の集会所、公民館など、所有するネットワーク化PCの機動性を活かした「出前講座」を広げていく。TMFの知名度を上げるとともに、NPOと市町村との協働事業を推進するための実績づくり、ビジネス助っ人隊営業への連携を志向する。</p>

③住民交流の場づくり

事業内容	時期と場所	対象	活動報告
三火会	毎月第三火曜日に、原則として東上まちづくりフォーラム事務局会議室にて開催。	一般	誰でもが参加できる懇親会形式の会。事務局のスペースで、軽食軽飲をしながら参加者が自己紹介や最近の話題を話し、あとは自由に歓談。東上まちづくりフォーラムの事を理解するための第一窓口の役割も果たす。平成20年度は年間を通じて合計9回開催。
東上線NP Oネット	2、3ヶ月に1回の割合で会合を開催	一般	20年度は市町村との協働提案会で発表を行い、そこから発展して、朝霞市で実施された中高年層の地域デビュー講座における講師をメンバーが務めた。